

# 協 篆 日 報 藝

日本篆刻家協会ニューズレター 2022.2.14 第9号  
発行 日本篆刻家協会 会長 尾崎蒼石 理事長 真鍋井蛙

日本篆刻家協会 563-0032 大阪府池田市石橋2-2-10-203 編集 常務理事 北田成磊

## 第五代理事長に就任して・利他の心・

理事長 真鍋井蛙



この度、理事長に選任されました真鍋井蛙でございます。就任にあたり一言ご挨拶申し上げます。本年度日本篆刻家協会は創立三十八年を迎えます。初代理事長の梅舒適先生が篆刻研究団体であった篆社を中心として、全日本的篆刻研究団体として、日本篆刻家協会を発足されましたのが一九八五年でありました。協会は篆刻のみの公募展を開催し、日本全国への篆刻普及を目指した団体へと発展していくこととなります。梅舒適先生以下歴代の理事長が中心となり、公募展のみならず、会員の分刻印譜、会員収蔵の篆刻関係文物の出版及びその研究誌、内外講師による実技指導や講演会、そして、本協会が大切にしてきた海外との交流等、枚挙に暇がありません。ここ二三年程、コロナ禍の渦中となり、大切にしてきましたこれらの諸行事が中止、縮小となつてまいりましたが、会員の皆様のご努力により、何とか今年は例年の行事もできるようなつてきたように思います。これまで先輩や現会員の皆様が築いてこられた伝統が、この協会には沢山あります。その上にこれからの新しい協会として、会員全ての皆様が楽しんで活動できる協会を目指していきたいと考えています。近年「利他の心」という言葉をよく耳にします。会員一人ひとりが手を携えていけば篆刻に限らず、何事も良い方向に向かい発展していくと考えていますが如何でしょうか。この協会を、そして篆刻を、我々は受け継ぎました。そして次世代へのバトンタッチをするのも我々の仕事なのでしょう。新しい企画、改善点、ほんの些細な事でもよいのでご提案いただければと存じます。そして会員皆様でこの会を盛り上げ楽しいものにしていくと考えています。私も微力ながら協会の更なる発展のために努力することをお誓いして、理事長就任のご挨拶とさせていただきます。

## 令和四年度総会報告

常務理事 松本雅至

令和四年度総会が一月九日にアートホテル大阪ベイタワーで開催され、新型コロナウイルス感染症渦中ではあったが、近畿を中心に役員、会員計九十一人が参加した。

総会に先立ち、一月九日十一時に企画委員会、十三時から理事会が開催された。総会は十四時三十分から、井谷五雲理事長が議長を務め進められた。令和三年度事業報告、同決算報告、同会計監査報告、令和四年度事業計画案、同予算案、同役員改選案が提案され、いずれも原案通り承認された。

この度の役員改選により、これまで三期と長きに亘り理事長として協会を引っ張っていただいた井谷五雲先生は常任顧問に、尾崎蒼石会長はご留任、新たに新理事長に真鍋井蛙先生がご就任されることになった。真鍋理事長にはこれまで以上にご手腕を発揮していただき、今後ともご指導を賜りたい。



▷ 議長を務めた井谷五雲常任顧問

◁ 壇上で挨拶をされる真鍋理事長



総会後十六時から「真鍋井蛙先生日展特選ご受賞を祝う会」が黒田玉洲代表理事の司会で進められた。尾崎蒼石会長並びに井谷五雲常任顧問のお祝いのことば、渡邊和琴代表理事による御祝と花束贈呈、真鍋先生が挨拶と謝辞を述べられた。山下方亭常任顧問の音頭で乾杯し、本来ならその後祝宴となるところだが、感染症拡大防止のため予定していた祝賀会の内容を変更し、すぐさま小朴圃副理事長の閉会のことばで幕を閉じた。閉会後に各テーブルにて黙食となった。

この度の総会は、昨年末からの急速なオミクロン株の蔓延により、体調不安の方や遠方の方には総会出席は無理のないようお願いしたため、出席者数は例年よりかなり少なくなった。ただ、昨年のように書面議決で終わった総会ではなく、小規模ながら役員および会員が集まり開催できたのは何よりだった。一刻も早くコロナ禍の終息を願ってやまない。

## 「工具書」についての執筆依頼、あれこれ

常任顧問 井谷五雲

全く時間の経過は早いものです。先号のニュースレターの発行が十月四日付でしたから、あれから既に四か月余りが過ぎようとしています。お正月などはあつという間のことでした。その間、年末の常務理事会、年が明けての新年総会と続き、新理事長以下フレッシュな役員人事が行われました。そして今、そろそろ本年の日本篆刻展の作品も締め切られる頃になりました。皆さん！良い作品は出来ましたでしょうか。

昨年のビッグイベントは何と言っても、コロナ禍で制作された分刻『蘭亭雅会印譜』でしょう。三三五人の会員が参加するという盛況で、制作に携わった者の一人ではありますが、その壮観さには驚かされるものがありました。

さて昨秋のニュースレター（第8号）『蘭亭雅会印譜』作品についての私の所感文の中に、印文文字の検字不十分を述べたくだりがありましたが、それについてややご立腹かと思われまますお便りがありました。

### 投稿子曰く

「『○○字林』に（中略）間違った文字が表示されているとなると、これは一大事だ」

というようなことでした。その通りですね。間違った文字が掲載されていたら一大事です。しかし、『○○字林』に間違った文字が掲載されているわけではありません。篆刻をするにあたって、「使用されている字典が『○○字林』などの安易な字典の使用に頼っている」ということが問題なのですね。

この検字についての問題を放置するわけにはまいりませんので、お詫びかたがた、投稿子のご要望にお応えすべく、工具書についての紹介をすることになりました。これから工具書の紹介をしていただきますが、手に入りにくいものもあります。逆に最近のネット事情で案外手に入りやすいものもあるかもしれません。字典を搜索することは文字意識を高める第一歩かとも思います。時代時代の造形美に触れ、それらを生み出した人達との交感。或は漢字の構造原理の理解。その上で己が主張を存分に発揮すべく、印石に対峙して欲しいと思います。そのとき必要なことは、それに適した文字群に触れることです。

今回、この工具書の紹介を喜多先生にお願いすることになりました。お手を煩わせますが、よろしく願います。

※『○○字林』と伏せ字にしましたのは、出版元との紳士協定によつてです。



① 篆刻字林／服部耕石編（B 6版）



② 総合篆書大字典林／綿引滔天編（B 5版）



③ 五体篆書字典／小林石寿編（A 5版）



④ 朝陽字鑑精萃／高田忠周編（A 5版）



⑤ 印文字／前田黙鳳（B 6版）



⑥ 常用篆刻字典／劉江主編（B 6版）



## 「工具書」《字書》について（一）

副理事長 喜多芳邑

篆刻の字書については、書物やネット上で詳しく専門的な紹介がなされている。金文なら『金文編・續金文編』とか『漢語古文字字形表・古文字類編』は必須だとか言う前に、今回は私自身の経験を踏まえ、一冊本で持ち運びできる字書を紹介したいと思います。

協会で分刻印譜を作成する制作担当者として、文字確認をする際、多くの会員の皆さんが使用されている字書が、①『篆刻字林』と②『篆書大字典』であることがよく分かる。この文字は少し怪しくはないかと疑念を抱いたとき、甲骨金文に違和感を抱いたとき、①か②の字書を調べれば納得がいく。「なぜこの字」と思われる字が使われていたり、また点画が間違った解釈で刻されていたりもする。また四字句で三文字まで編者の甲骨金文の作字に頼って刻してあり驚くときもある。二冊とも持っていないと困るので、場面に応じてよく使っているし、便利な字書であることは間違いない。①は俗にいう海賊版を持っている。今は三圭社が版權をもつて販売されている。⑥『常用篆刻字典』も三圭社から出ている。厚みはあるが、A 5版で携帯しやすく、積極的に作字されている。②は増版されておらず、入手困難になってきている。印篆・金文・小篆それぞれの小さい字典も出ている。

大学一回生の時、書でも篆刻でも検字をする際、先輩から言われたのが、「原本を見る」であった。つまりより本来の拓本等に近しいもの、転写されたものということであろう。勧められたのが④『朝陽字鑑精萃』であった。編者の高田忠周は、大著『古籀篇』（一〇〇巻）で帝国学士院賞を受けた古文字学・説文学の権威。

『古籀篇』の姉妹編として、三代より秦漢に至る金石文・印篆な



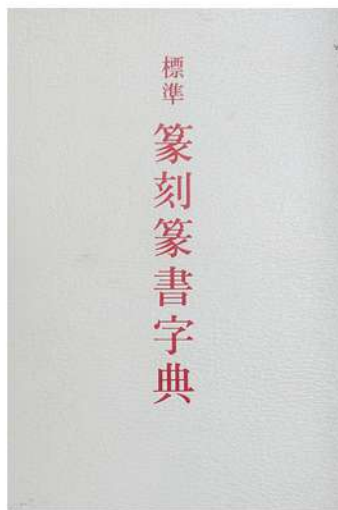
⑨ 近代篆刻字典／中西庚南編（A5版）



⑧ 新書源／二玄社（A5版）



⑦ 標準篆刻篆書字典／牛窪梧牛編（A5版）



⑩ 篆刻小字典（A5版）



⑫ 古代文字字典（甲骨金文編）  
城南山人編（A5版）



⑪ 必携篆書印譜字典  
荻毛政雄編（B6版）



⑦『補正朝陽字鑑』を編纂した。あま  
 りにも高価で、あまりにも膨大かつ難解だったため、より使いや  
 すいように再編集、縮冊したのが『朝陽字鑑精萃』である。  
 当時、『篆刻字林』や『朝陽字鑑精萃』は音訓索引がなく、朝  
 陽字鑑に至ってはどの字を使っても解からなかった。木耳  
 社の③『五体篆書字典』が俗字や通字もあり、検字を面倒がる学  
 生の私には重宝した。しかしながらこれも①②⑥と同様、編者の  
 手書きによるため、印稿、刻印が影響を受けすぎていたかもしれ  
 ない。  
 一回生の秋、先輩と京都の東方書店へ行ったとき、『⑤『印文学』  
 あるで、買ついたら』などと言われた。楷書や隷書も載ってい  
 る。何のことかわからず購入した。前田黙鳳が編集した原本は十  
 二冊の和綴本であるが、A5版で中文出版社から洋本として出さ  
 れていた。私の持っているものは台北の藝文印書館のものであり  
 白黒反転しており、意外と見やすい。  
 高校教員を三十八年もしていると転勤のたびに字書を揃えてい  
 くことになる。多くの学校は、『五体字類』しかなく、篆刻の授  
 業など困難であった。⑦『標準篆刻篆書字典』、⑧『新書源』、  
 ⑨『近代篆刻字典』、⑩『篆刻小字典』などの字書を数年かけて  
 整備していく。⑦は小篆・印篆・金文・古籀の順で、作字もなさ  
 れているが編者による手書きで一字ずつ掲載されており、初学者  
 にとっては迷いが無い。①②③⑥もこの形式で各体を混用するこ  
 とを避けることが出来る。  
 普及版としての⑧『新書源』、『書道字典（角川書店）』、  
 『新書道字典（二玄社）』、『書体小字典（赤井清美編 東京堂  
 出版）』は概ね楷・行・草・篆隷の順で整理されている。『書体  
 小字典』などは真蹟、金文拓本、秦簡や帛書など写真製版のまま  
 載せようとしている姿勢がうかがえる、結構好きな字書である。



# ① 書法字典大全



## ② 書法字典



### ③ 書法大師



これらの字書は各書体を幅広く見ていくことが出来、広く研究することで篆刻の向上も期待できる。

少し刻せるようになってくると、呉昌碩や趙之謙などの印譜を見るようになり模倣したくなる。折しも⑨『近代篆刻字典』が出版された。近代印人の印影の切り貼りである。朱文、白文をそのまま掲載されているので、朱白それぞれの文字の太細や形が解っている。⑩『篆刻小字典』は⑨の普及版である。中国吉林文史出版社の『篆刻字典』などは⑨そのまま印刷である。違いといえば掲載された印人小傳が付け加えられていることだけである。

検字をしても印面にそのまま並べても仕方ない。調べた字が、印影においてどのように使用されているかも重要である。

原印を見ることが大切である。⑪『篆書印譜字典』はコンパクトながらも簡にして要を得ている。璽印に特化するならば『中国璽印類編 小林斗盦編』も多くの璽印の印影を見ることが出来る。

⑫『古代文字字典 甲骨金文編』を見たときは驚いた。甲骨・金文の字書の再編である。二〇〇二年に二〇〇〇円で出版されている。よくぞこの値段でこれだけのものを出したと感心した。甲骨については『甲骨文編』・『統甲骨文編』『漢語古文字字形表』・『古文字類編』・『字統』、金文については『金文編』・『漢語古文字字形表』・『古文字類編』・『字統』と字書中よりある程度厳選しながら、原本より転写して載せている。

「一冊本で持ち運びできる字書」として紹介したが、編集の仕方はそれぞれで特徴があり、時代順・書体別に整理したもの、印影掲載のもの、字書を再編したもの等がある。いずれにしても自分の慣れた字書のみに頼らず、積極的に幅広く見ていく必要はあると思う。

デジタルの時代ですのでスマホを便利に使いたい。私も移動時にはよく利用する。一つは書法字典のアプリ。「iphone」と「アンドロイド」では形式が少し違うがダウンロードしておくとし便利。「書法字典」と「書法大師」は中国のウェブサイト。ホームにアイコンを作成して使っている。中国のサイトゆえ、猜疑心を抱かれる方はやめたほうがいいかもしれない。ただ掲載内容が豊富であり、印影もたくさんある。『篆刻字典』『篆書印譜字典』のページをそのまま載せたりもして、著作権はどうなっているのか？

次回、機会があれば、大型の字書を紹介できればと思う。本棚の肥やしになっている字書も多くあるが時々必要となる。たくさん字書を広げすぎ、片付けるのにぞつとするとときもある。しかし、手に取って調べていくと横への広がりもある。どの字書で調べてもちよつと変わった形だからと言って安易に使わず、別のもので調べ、字義や点画の構造を理解し、自信をもって使用することが肝要である。

字書を作るのは大変な労力と時間を必要とし、編纂された方々に敬意を払う次第である。

## 西冷印社第十回篆刻芸術評展 結果報告

優秀作者 中村葉舟 古溝幽畦 出田塘葭 黒田玉洲  
入展作者 井後雅堂 戸出九廬 関踏青 古野燕安 北田成磊  
松本雅至 射場少藍 嵯峨洛山 稲垣華扇

## 令和三年度第八回日展 結果報告

会員出品 尾崎蒼石  
会友特選 真鍋井蛙  
会友入選 喜多芳邑  
新入選 萬谷碧鳳 大林蒼樹 松井亓郎

## 百年印証 萬印楼当代篆刻芸術大展 収蔵計画

|      |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|------|
| 今村董圃 | 坂本舜華 | 田原呉山 | 福谷華紅 | 本郷紫香 | 横井青蓮 |
| 浅野祥雲 | 多田学友 | 松田泰軒 | 丸山沙舟 | 吉田宗里 | 梅原玉翠 |
| 橘高香流 | 小森香苑 | 渋谷春好 | 寺田知了 | 得永春水 | 村田祥鳳 |
| 伊谷昌子 | 井上秋鹿 | 小松五岳 | 鈴木耕石 | 高橋忠義 | 田中紅珠 |
| 中森紫香 | 東緑園  | 大野勝山 | 八木壽石 | 渡邊幽石 |      |

※入賞・入選者と合わせて、以上の方の作品が萬印楼に収蔵されます。  
尚、楯と証書が贈呈されました。  
萬印楼当代篆刻芸術大展に関する入選・入賞賞金、及び図録等は各  
印社代表に送らせていただきました。

## 月例課題成績発表 二〇二〇年八月～二〇二一年七月

役員 山吹縁 4回  
平中葭舟 5回 (うち常任委員として2回)  
常任委員 奥島極浦 6回  
委員 植田杏華 大塚萩露 大野勝山  
小林英昭 中本管玉 松村信夫 (6名とも4回)  
会員 吉田草心 7回

※一月九日の総会時に賞品をお渡しいたしました。

## 令和四年度 事業計画

●第三十八回日本篆刻展  
作品×切 二月末  
審査準備 三月二十六日(土) 兵庫県立美術館(原田の森ギャラリー)  
審査 三月二十七日(日)  
会期 六月一日(水)～五日(日)  
特別展観「中国の古鈐印・・・戦国・秦・漢を中心として」  
授賞式六月四日(土) ANAクラウンプラザホテル神戸  
併催第六回日本篆刻家協会学生展

### ●第十四回日本篆刻家協会役員展

六月二十五日(土)～八月二十四日(水) 古河篆刻美術館

### ●第十三回中央研究会

十一月二十六日(土)～二十八日(月) 舞子ビラ  
中国の古鈐 大印製作の研究 張耕源研究

### ●常務理事会十一月十二日(土) 錦城閣

※海外交流は未定ですが随時連絡いたします。  
※本年度の社中展等、開催予定がございましたら協会事務所までご連絡下さい。